

8 研究のまとめ方 —簡潔に整理する—

児童生徒の変容した姿を通して、手立ての有効性を明らかにする。

研究のまとめは、成果と課題に分けて箇条書きにするなどして簡潔に整理することが大切です。

研究の成果

研究主題、研究の仮説で示した目的（目指す児童生徒の姿）を達成する上で、どんな手立てが有効であったかを示す。

研究の成果は、研究の仮説で示した目的と手立てを基に表現する方法が多く用いられます。

目的を先に述べ、手立てにつなぐ表現方法

「○○○○○○○○○○○○○○○○上で、○○○○○○○○○○○○は有効であった。」

[目的（目指す姿）]

[手立て]

手立てを先に述べ、目的につなぐ表現方法

「○○を○○○○○○○○○○することは、○○○○○○○○○○が育った。」

[手立て]

[目的（目指す姿）]

今後の課題

実践の中で達成できなかった点や不十分だった点を明らかにし、次の取組に向けての見通しを示す。

今後の課題は、次の二つの型で表現するとまとめやすくなります。

問題点型

実践の中で達成できなかった点や不十分だった点を問題点として挙げ、課題につなぐ。

発展型

研究を終えて更に深めたい点や新たに工夫したい点を課題として取り上げる。

成果や課題をまとめるに当たっては、次の点に留意する必要があります。

- 既知の事実を言い換えただけの表現にならないようにする。
- 成果で示した項目数が課題で示した項目数より少なくなならないようにする。
- 今後の課題が問題点を示しただけにならないよう、今後の方向性も記述する。

研究のまとめ方としては、箇条書き以外に、文章にまとめる方法があります。その場合には、まず結論を述べ、その後で説明を加えるようにすると、読み手に伝わりやすくなります。

〈参考文献〉 野田敏孝『初めての教育論文—現場教師が研究論文を書くための65のポイント』 北大路書房 2005
教育論文の書き方研究会『教育論文・研究報告の書き方』 教育出版 1996
西川 純『実証的教育研究の技法—これでできる教育研究』 大学教育出版 1999